

4 番の歌 「エホバは私の牧者」

エホバの手はあなたのところにも届きます

「エホバの手はそんなに短いのだろうか」 [民数 11:23](#) 脚注 エホバはモーセに言った。「それはエホバにできないことだろうか(*エホバの手はそんなに短いのだろうか)。私が言った通りになるかどうか、すぐに分かる」。

ポイント： **エホバは必ず私たちに必要なものを与え、養って**くれます。そのことへの**信仰を強め**ましょう。

1. モーセがエホバを信頼していたことはどんなことから分かりますか。

「**ヘブライ人のクリスチャンへの手紙**」には**強い信仰を持っていた人たち**が出てきます。その 1 人は**モーセ**です。 ([へブ 3:2-5](#) イエスは自分を任命した神に忠実でした。 **モーセが神の家(c*神の会衆のこと)全体の中で忠実に仕えたのと同じです。** ³ イエスはモーセより大きな栄光を受けるに値すると見なされています。家を造る人は、家そのものよりも大きな栄誉を受けるからです。 ⁴ 言うまでもなく、家は全て誰かによって造られるのであり、全てのものを造ったのは神です。 ⁵ **モーセは、神の家全体の中で従者として忠実に仕え、その奉仕は後に語られる事柄を示していました(*を証明するものとなりました); [11:23-25](#) 信仰によってモーセの両親は、モーセを生後 3 カ月の間隠しました。その子が美しいのを見たからであり、王の命令を恐れなかったのです。** ²⁴ 信仰によってモーセは、成人した後ファラオの娘の子と呼ばれることを拒み、 ²⁵ **罪のつかの間の快樂にふけるよりも神の民と共に虐待されることを選びました。)** モーセは**ファラオやその軍隊を恐れることなく、イスラエル人を率いてエジプトを脱出**することができました。**紅海を渡り、民を荒野に導いた時も、エホバを信頼し続け**ました。 ([へブ 11:27-29](#) 信仰によってモーセは、王の怒りを恐れることなくエジプトを去りました。目に見えない方を見ているように、しっかりと立ち続けたのです。 ²⁸ そして信仰によって、**過ぎ越しと血を掛けることとを執り行い、滅ぼす者が民の初子たちに危害を加える(d*に触れる)ことがないようにしました。** ²⁹ 信仰によって民は、乾いた陸地を通るかのように紅海を渡りました。一方、同じように渡ろうとしたエジプト人は、海にのみ込まれました。) **多くの人**が**エホバは本当に自分たちを世話**してくれるのか**疑う**ようになった時も、モーセは**エホバの力を信じ続け**ました。その**信頼は裏切られません**でした。エホバは**奇跡**を起こしてイスラエル人に**食べ物と水を与え、荒野でも生きていけるように**しました。 *「**ものみの塔**」 2023 年 10 月号の「[読者からの質問](#)」 (イスラエル人は荒野にいた 40 年の間、主にマナを食べていた。(出 16:35) エホバからウズラを与えられたことも 2 回ある。(出 16:12, 13. 民 11:31) でも、**マナとウズラ以外にも食べ物**はあった。)を参照。 ([出 15:22-25](#) その後、モーセはイスラエルを紅海から出発させた。彼らはシユルの荒野へ行き、荒野を 3 日間進んだが、水を見つけることができなかった。 ²³ そしてマラ(m*苦さ)に來たが、マラの水は苦くて飲めなかった。それでそこはマラと名付けられた。 ²⁴ 民はモーセに対して不満を口に始め、「何を飲んだらいいのか」と言った。 ²⁵ モーセはエホバに向かって叫んだ。するとエホバは 1 本の木を指し示し、モーセがそれを水の中に投げ入れると、水

は飲めるように(d*甘く)なった。神はこの件を裁きのための先例として定め、民への教訓とした。神は民を試していたのであり。[詩 78:23-25](#) それで神は大空の雲に命じ、天の扉を開いた。²⁴ マナを雨のように降らせて食べさせ、天の穀物を与えた。²⁵ 人々は力の強い者(*天使)たちのパンを食べ、神から食物を十分に与えられた。)

2. エホバがモーセに「それはエホバにできないことだろうか」と言ったのはどうしてですか。(民数記 11:21-23)

2 そんなモーセでも、エホバの力に疑問を持ったことがあります。それはイスラエルが奇跡によって救出されてから約1年後、エホバが民に肉を与えると言った時のことです。何もない荒野で、どうやって数百万もの人におなかいっぱい肉を食べさせるというのでしょうか。モーセには想像もつきませんでした。でも、エホバはモーセにこう言います。「それはエホバにできないことだろうか」。(民数記 11:21-23 モーセは言った。「私と一緒にいる民は、徒歩で行く男性だけで60万人います。それなのに、あなたは、『肉を与える。民は丸1カ月は食べられる』と言われました。²² 羊や牛を全て殺しても、それで足りるでしょうか。海の魚を全て捕っても、それで足りるでしょうか」。²³ エホバはモーセに言った。「それはエホバにできないことだろうか(*エホバの手はそんなに短いのだろうか)。私が言った通りになるかどうか、すぐに分かる」。)と23節の脚注を読む。)この表現は、元のヘブライ語では「エホバの手はそんなに短いのだろうか」とも訳せます。「エホバの手」とは、聖なる力、つまりエホバが望むことを行うために使う力のことです。エホバはいわば「私はやると言ったことを必ずやり遂げる」と言っていました。

3. モーセとイスラエル人が経験したことについて考えるとよいのはどうしてですか。

3 あなたは、エホバが自分や家族に必要なものを本当に与えてくれるのだろうか、と思ったことがありますか。この記事では、モーセとイスラエル人がエホバの力を疑ってしまった時のことについて調べます。エホバにできないことはない、という信仰を強める聖書の言葉も考えます。

モーセとイスラエル人が経験したこと

4. 多くのイスラエル人が不満を言い始めたのはどうしてですか。

4 エジプトを出て約束の地に向かう旅をしていた人の中には、イスラエル人だけでなく、「さまざまな」つまり外国人もいました。(出 12:38 さまざまな人(c*イスラエル人以外の人のことで、エジプト人も含む)も大勢一緒に行き、羊や牛、多数の家畜が一緒だった。[申 8:15](#) 毒蛇とサソリがいて、水がなく乾き切った地面が続く広大で恐ろしい荒野を通り抜けさせました。硬い(*火打ち石のような)岩から水を出し、)荒野でマナを食べることに飽き飽きした外国人は文句を言い始め、イスラエル人もそれに加わります。(民 11:4-6 民の中にいたさまざまな外国人が利己的な願望を口にし、イスラエル人も泣いてこう言いだした。「誰が肉を食べさせてくれるのか。⁵ エジプトでただで食べていた魚が本当に懐かしい。それに、キュウリやスイカ、ネギ、タマネギ、ニンニクもだ。⁶ それが今、私たちは痩せ衰えている。目にするのはこのマナばかりだ」。)エジプトで食べていた物を恋しがり、その気持ちをモーセにぶつけます。それを聞いたモーセは、自分が食べ物を用意しないといけないというプレッシャーを感じたようです。(民 11:13, 14 こ

の民全てに与える肉がどこで手に入るでしょうか。民は私の前で泣き続け、『肉を食べさせてくれ』と言っているのです。14 私独りで、この民全てを負うことはできません。私には無理です。)

5-6. 多くのイスラエル人が外国人の影響を受けたことから何を学べますか。

5 イスラエル人は、エホバへの感謝の気持ちが欠けた外国人から影響を受けてしまったようです。私たちにも同じようなことが起こり得ます。周りには感謝の気持ちが足りない人が多いので、その影響を受けて、エホバが与えてくれているものに満足しなくなるかもしれません。以前に持っていたものを懐かしんだり、ほかの人が持っているものをうらやんだりするようになるかもしれません。でも、満足する気持ちがあれば、どんな状況でも心を乱されずに済みます。

6 エホバはイスラエル人に、荒野ではなく約束の地に入ってから良いものをふんだんに与える、と言っていました。イスラエル人はその約束について思い出すべきでした。私たちも今の体制で手に入らないものではなく、新しい世界で与えるとエホバが約束しているものに気持ちを向けるようにしましょう。また、エホバへの信頼を強める聖句についてじっくり考えるのも大切です。

7. エホバの手が自分のところにも届く、と信じられるのはなぜですか。

7 エホバがモーセに「エホバの手はそんなに短いのだろうか」と言ったのはどうしてでしょうか。自分の手が力強いということだけでなく、その手がどんなところにも届く、ということを経験したからです。たとえ荒野の真ん中であっても、エホバはイスラエル人のために大量の肉を準備することができます。「腕を伸ばして、力強い手で」イスラエル人を養えるはずですよ。

(詩 136:11, 12 イスラエルをエジプトから連れ出した。神の揺るぎない愛は永遠に続く。12 腕を伸ばして、力強い手で。神の揺るぎない愛は永遠に続く。) もし今、大変な経験をしているとしても、エホバの手はあなたのところにも届く、ということを経験してください。(詩 138:6, 7 エホバは高い所にいるが、謙遜な人に目を留める。しかし傲慢な人のことは、遠くから知っているにすぎない。7 たとえ私が危険のただ中を歩くとしても、あなたは私を生き続けさせてくださる。手を伸ばして私の敵の怒りを遮り、右手で救ってくださる。)

8. どうすればイスラエル人と同じ間違いをしなくて済みますか。(挿絵も参照。)

8 エホバはたくさんのウズラがイスラエルの宿営に舞い降りるようにして、言った通り肉を与えました。でもイスラエル人は、感謝するどころか欲望をむき出しにし、寝る間も惜しんでウズラを集めます。エホバは「利己的な渴望を示した人々」に対して激怒し、処罰しました。(民 11:31-34 エホバのもとから風が吹き、海からウズラを運んできて、宿営の周りに落とした。ウズラは宿営の周囲一帯に、歩いて1日かかる所まで、1メートルほどの高さで積もった。32 民はその日1日、また夜通し、さらに次の日も1日、寝ずにウズラを集めた。一番少ない人でも2200リットルは集めた。そして、自分たちのために宿営の周囲一帯に並べていった。33 しかし、肉を口に入れて食べている間に、民に対してエホバの怒りが燃え、エホバは民を打ち始め、非常に大勢の人を滅ぼした。34 その場所はキブロット・ハタアワ(m*渴望の墓場)と呼ばれるようになった。利

己的な渴望を示した人々をそこで葬ったからである。)ここから学べることがあります。私たちも、満足せずもっともっと欲しいと思う気持ちに注意しなければいけません。お金をたくさん持っているとしてもそうでないとしても、エホバとイエスとの友情を育て「天に宝を蓄え」ることを優先しましょう。(マタ 6:19, 20 自分のために地上に宝を蓄えるのをやめなさい。そこでは蛾やさびがむしばみ、泥棒が入って盗みます。20 むしろ、自分のために天に宝を蓄えなさい。そこでは蛾やさびがむしばんだり、泥棒が入って盗んだりすることはありません。ルカ 16:9 また、あなたたちに言いますが、この世の富によって友をつくり、そうした物が尽きた時に永遠の住まいに迎え入れてもらえるようにしなさい。)そうしていれば、エホバは必ず私たちのことを養ってくれます。



イスラエル人の良くない態度から何を学べますか。(8節を参照。)

9. エホバがどんなことをしてくれると確信できますか。

9 エホバは今も私たちに助けの手を差し伸べてくれます。ということは、お金や物を失ったり、ひもじい思いをしたりすることは絶対にないのでしょうか。そうではありません。^{*}「ものみの塔」2014年9月15日号の「読者からの質問」(エホバの崇拜者が決して窮乏しないという意味ではないが、そうした危機的な状況にあっても、エホバから見捨てられたわけではない。神は王国の関心事を生活の中で第一にする忠実な僕たちの必要を満たしてくださる。)を参照。たとえそういう経験をするとしても、エホバが私たちを見捨てることは決してありません。大変なときも必ず支えてくれます。では、特にどんなときにエホバが養ってくれると信じることが大切か考えてみましょう。(1) 生活が苦しいとき、(2) 老後の暮らしが心配になるときです。

生活が苦しいとき

10. どんなふうに生活が大変になるかもしれませんか。

10 この世界が終わりに近づくにつれ、経済事情は悪くなっていくはず。政情不安、武力紛争、自然災害、新しい感染症などによって生活が苦しくなったり、仕事や物や家を失ったりすることがあります。新しい仕事を探さなければいけないかもしれません。家族を養うために引っ越した方がいいのではないかなどと思うこともあるでしょう。そんなとき、どうすればエホバが助けてくれると信じて良い選択ができるのでしょうか。

11. 生活が苦しいとき、どんなことができますか。 ([ルカ 12:29-31](#))

11 **まず**できるのは、**不安な気持ちをエホバに伝える**ことです。(格 16:3 行うことは何でもエホバに委ねよ(d*あなたが行うことをエホバに転がせ)。そうすれば、計画は成功する。) **賢い選択**ができるよう**助けて**ください、「**心配して気をもむ**」ことなく**穏やかな気持ち**でいられるよう**助けて**ください、と**祈ることが**できます。(ルカ 12:29-31 それで、何を食べるのか、何を飲むのかとばかり考えるのをやめ、**心配して気をもむのをやめなさい**。30 これらは全て世の人々が必死に求めているものですが、天の父は、あなたたちがこうしたものを必要としていることを知っています。31 そうではなく、**神の王国をいつも第一に**しなさい。そうすれば、こうしたものはあなたたちに与えられます。を読む。) **本当に必要なものだけで満足できるように**と**祈る**こともできます。(テモ一 6:7, 8 私たちは何も持たずに世に生まれ、何も持たずに世を去ります。8 ですから、**食物(*命を支える物)と衣服(if*住まい/d 覆い)があれば、それで満足します。**) **生活が苦しいとき、問題に上手に取り組むのに役立つアドバイス**を聖書に基づく**出版物から探**しましょう。[jw.org](#)にも参考になる**記事**や**動画**がたくさんあります。

12. 仕事を決めるときにどんなことを考えるといいですか。

12 ある人たちは、**家族と離れ離れになるような仕事に就**きましたが、そのことを**後悔**しています。**仕事を選ぶ**とき、**どれぐらい給料をもらえるか**だけでなく、**エホバとの友情にどんな影響**があるかも考えるようにしましょう。(ルカ 14:28 例えば、塔を建てようと思う場合、**まず座って費用を計算し、完成させるだけのものを持っているかどうかを確かめる**のではないでしょうか。) **次のような点を考える**ことができます。「**夫婦が離れて生活**していると、2人の絆はどうなってしまうだろうか。**引っ越す**と、**奉仕に充てる時間**や**仲間と過ごす時間**が**減って**しまわないだろうか。子供がいるなら次のことも考えてください。**子供と離れて暮らしながら「エホバが望む指導と助言によって」育てる**ことができるだろうか。(エフェ 6:4 父親は、子供をいら立たせないようにし、エホバ(*)が**望む指導と助言(*エホバの考えを入れること)によって育てて**ください。) **聖書を信じていない親戚や友人の意見に流されるのではなく、エホバが何を望んでいるかを考えて判断**しましょう。***「ものみの塔」2014年4月15日号の「だれも二人の主人に仕えることはできません」という記事**(経済的な事柄だけを考慮して外国に働きに出たり別居などすると霊的に悲惨な結果を刈り取ることがある。それで生活の中で王国と神の義を第一にするなら、本当に必要なものは与えられる、と父エホバの保証の言葉に助けを求めるべき。)を参照。」西アジアに住む**トニー**は、**外国での仕事の話**を幾つか持ち掛けられました。**でもエホバに祈り、妻とも話し合った後、その打診を断り、節約を心掛け**ました。トニーはこう言っています。「**エホバと親しくなれるよう、何人かの人を助ける**ことができました。うちの**子たちもエホバに一生懸命仕えて**います。**マタイ 6章 33節**ですから、**王国と神から見て正しいこととをいつも第一に**しなさい。そうすれば、こうしたほかのもの全ても、あなたたちに与えられます。**の言葉の通りにしている人をエホバは必ず養ってくれる**、ということを**実感**しています」。

老後の暮らしが心配になるとき

13. 老後の暮らしに備えてどうするのは賢明なことですか。

13 エホバが助け⁷てくれることは分かっていても、自分が年を取ったらどうなるかを考えると心配になるかもしれません。聖書は、先⁸のことも考えて一生懸命働くよう勧め⁹ています。（格 6:6-11 怠け者よ、アリの所へ行け。そのやり方を見て、賢くなれ。7 アリには司令官も、役人も、支配者もないが、8 夏の間に食物を用意し、収穫の時に食糧を集める。9 怠け者よ、いつまで横になっているのか。いつ起きるのか。10 しばらく眠り、しばらくうとうとし、しばらく手を組んで休む。11 すると、貧乏が盗賊のように、窮乏が強盗のようにやって来る。）できるなら将来のために貯金¹²をしておくのも賢明なことです。確かにお金があれば、ある程度の安心感¹³が持てます。（伝 7:12 お金は身の守りであり、知恵も身の守りである。しかし知識や知恵の利点は、人の命を保たせることだ。）とはいえ、お金や物を一番大切なもの¹⁴にしないように¹⁵しましょう。

14. 将来に備える上でヘブライ 13 章 5 節を考えるとよいのはどうしてですか。

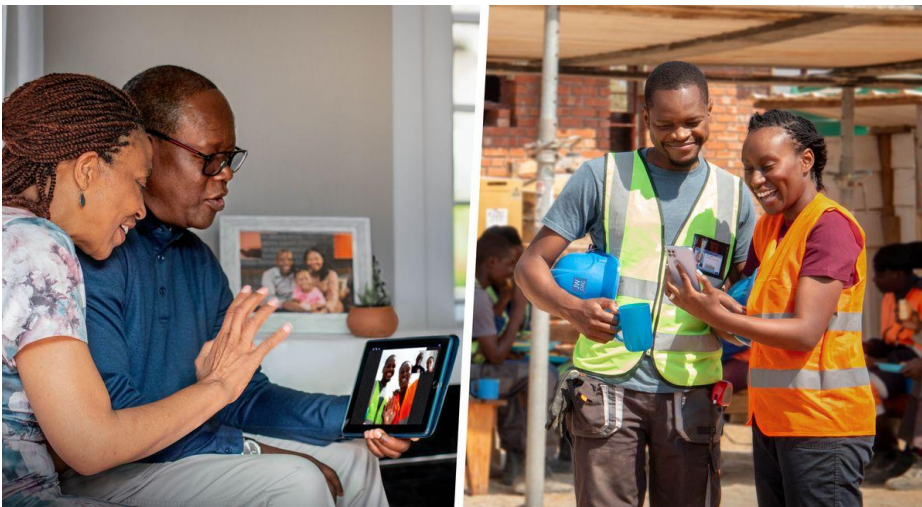
14 イエスは、お金を蓄えても「神から見て裕福でない」のは愚かなことだと教えました。（ルカ 12:16-21）そして次のような例えを話した。「ある裕福な人の土地で作物が豊かに実りました。17 そこでその人は心の中で考え始めました。『どうしようか。作物を集める場所がない』。18 その人は言いました。『こうしよう。倉を取り壊して、もっと大きいのを建て、そこに穀物などを全て集めるのだ。19 そして自分に言おう。「おまえはたくさんの良い物を何年分も蓄えることができた。楽にして、食べて、飲んで、楽しめ」』。20 しかし神は言いました。『無分別な者よ、今夜、あなたの命は取り上げられる。そうしたら、蓄えた物は誰のものになるのか』。21 自分のために宝を蓄えても、神から見て裕福でない人はこうなるのです。」）あした²²がどうなるかは誰にも分かりません。（格 23:4, 5 富を得ようとして疲れ切ってはならない。そうするのをやめて理解力を示せ(if*自分の理解に頼るのをやめよ)。5 目をやると、そこに富はない。それは必ずワシのように翼を生やして空に飛び去る。ヤコ 4:13-15 「今日か明日、あの都市に行ってそこで1年過ごし、商売をしてもうけよう」と言う人たち、14 皆さんは自分の命が明日どうなるかも知りません。皆さんは少しの間だけ現れて消える霧だからです。15 それで代わりに、「もしエホバ(*)が望まれるなら、私たちは生きていて、あれやこれができるだろう」と言うべきです。）イエスは自分の弟子になりたいなら、持ち物全てに「別れを告げ」なければいけない、とも言いました。

（ルカ 14:33 同じように、持ち物全てに別れを告げない(*を手放さない)人は誰も私の弟子になることができません。）1 世紀のユダヤのクリスチャンは、持ち物を失うことにも喜んで耐えました。（ヘブ 10:34 捕らわれている人たちに同情し、持ち物が奪われても喜んで耐え忍びました。もっと良い、永続するものを持っていることを知っているからです。）今でも、政治に関わらないという理由で経済的に苦しい思いをしている兄弟姉妹が大勢います。（啓 13:16, 17 初めの野獣はさらに、あらゆる人、すなわち、小さな者にも大きな者にも、裕福な者にも貧しい者にも、自由な者にも奴隷にも、右手か額に印を受けさせる。17 そして、その印、つまり野獣の名である数字を記されている者以外は、誰も売り買いできないようにする。）そういう中でも兄弟姉妹が頑張れているのはどうしてでしょうか。エホバの次の約束を 100 パーセント信じているからです。「私は決してあなたを離れず、決してあなたを見捨てない」。（ヘブライ 13:5 お金を愛するような生き方をせず、今あるもので満足しましょう。神はこう言っています。「私は決してあな

たを離れず、決してあなたを見捨てない」。を読む。) 将来に備えて自分にできることはしますが、思いがけない変化が起きるときは、私たちが世話してくれるエホバを信頼しましょう。

15. 親は子供からサポートを受けることについて、どんなバランスの取れた見方をするべきですか。(写真も参照。)

15 文化圏によっては、年を取ってから経済的にサポートしてもらうことを期待して子供を持つことにする人たちもいます。いわば“老後のための積み立て”のように考えているのです。でも聖書は、親に子供を世話する責任があると教えています。(コリ二 12:14 私がそちらに行く用意をしたのは、これで3度目です。このたびも私は負担を掛けないようにします。私が求めているのは皆さんの持ち物ではなく、皆さん自身だからです。子供が親のために物を蓄えるのではなく、親が子供のために蓄えるべきなのです。) もちろん、年を取った親が子供からのサポートを必要とすることもあるでしょう。子供たちも喜んで力になりたいと思うはずです。(テモ一 5:4 しかし、やもめに子供や孫がいるなら、彼らに次のことを学ばせてください。まず自分の家族を世話することによって神への専心を示し、親や祖父母から受けた恩に報いるべきである、ということです。これは神に喜ばれることです。) でもクリスチャンの親にとって一番うれしいのは、子供がエホバに仕えるようになることです。子供が老後の安心材料になることではありません。(ヨハ三 4 私の子供たちが真理に従って歩み続けているのを聞くことほど、うれしい(if*感謝すべき)ことはありません。)



クリスチャンの夫婦は聖書のアドバイスに沿って、将来を見据えた計画を立てる。(15 節を参照。)

*写真や挿絵: クリスチャンの夫婦が娘とビデオ通話をしている。娘は夫と一緒に王国会館の建設プロジェクトに参加している。

16. 親は子供が自活できるよう、どんなふうにサポートできますか。(エフェソス 4:28)

16 親は自分が手本になって、エホバに頼るとはどういうことかを子供に教えてください。そして自活できるようにも助けてください。一生懸命働くことの大切さを小さい時から教えましょう。(格 29:21 召し使いを若い時から甘やかすと、いずれ感謝しない人になる。エフェソス 4:28 盗んでいる人は、もう盗んではなりません。きちんと仕事をし、一生懸命働いてください。そうすれば、生活に困っている人に物を分けてあげられるでしょう。を読む。) 学校でしっかり勉強するようにも教えてください。まず親が聖書のアドバイスを調べ、どんな教育を受けるかを子供が賢

く選択できるようサポートしてあげましょう。そしてその教育を生かして自活し、伝道に打ち込めるようにも助けてください。

17. どんなことを確信できますか。

17 エホバは自分に仕える人たちを養い支えたいと思っていて、そうする力も持っています。この世界の終わりが近づくにつれて、そのことへの信仰がますます必要になっていきます。これから何が起きるとしてもエホバが世話してくれることは変わりません。エホバは腕を伸ばして、その力強い手で必ず支えてくれます。エホバの手が私たちのところに届かないということは決してないのです。

振り返ってみましょう

1. モーセとイスラエル人が経験したことから何を学べますか。

・S05 イスラエル人は、エホバへの感謝の気持ちが欠けた外国人から影響を受けてしまった。私たちにも周りには感謝の気持ちが足りない人が多いので、同じようなことが起こり得る。その影響を受けて、エホバが与えてくれているものに満足しなくなるかもしれないが、満足する気持ちがあれば、どんな状況でも心を乱されずに済む。

・S06 エホバは約束の地に入ってから良いものをふんだんに与える、と言っていた。イスラエル人は約束の地に入ってからエホバの約束について思い出すべきだったように、私たちも今の体制ではなく、新しい世界で与えるとエホバが約束してくださっているものに気持ちを向ける。またエホバへの信頼を強める聖句についてじっくり考える。

・S08 エホバは言われた通りたくさんのウズラの肉を与えたが、イスラエル人は、感謝するどころか欲望をむき出しにして肉を集めたために処罰された。私たちも、満足せずもっともっと欲しいと思う気持ちに注意し、エホバとイエスとの友情を育て「天に宝を蓄え」ることを優先すべき。エホバは必ず私たちのことを養ってくださる。

2. 生活が苦しいとき、どのようにエホバを信頼できますか。

・S11 エホバが助けてくれると信じて良い選択をすべき。まずできるのは、不安な気持ちをエホバに伝える。賢い選択ができるよう、穏やかな気持ちでいられるよう、本当に必要なものだけで満足できるように、助けを祈り求めることができる。また問題に上手に取り組むのに役立つアドバイスを聖書に基づく出版物から探す。

・S12 仕事を選ぶとき、どれぐらい給料をもらえるかだけでなく、エホバとの友情にどんな影響があるか、またエホバが何を望んでいるかを考えて判断する。王国と神から見て正しいことをいつも第一にするなら、エホバは必ず養ってくれるということを経験できる。

3. 老後の暮らしが心配になるとき、どんなことを忘れてはいけませんか。

・S13 できるなら将来のために貯金をしておくのも賢明なことで、お金があればある程度の安心感を持てるものの、お金や物を一番大切なものにしないように注意すべき。

・S14 イエスは、お金を蓄えても「神から見て裕福でない」のは愚かなことだと教えた。将来に備えて自分にできることはしますが、思いがけない変化が起きるときは、私たちを世話してくれるエホバを信頼する。

・S15 年を取ってから経済的にサポートしてもらうことを期待して子供を持つことにする人たちもいるが、クリスチャンの親にとって一番大切なのは、子供がエホバに仕えるようになることで、子供が老後の安心材料になることではない。